

1. まちづくり方針・誘導方針の検討

持続可能な都市づくりに向けた課題

- 生活**
 - 中空知の暮らしを守る都市機能を確保
 - 安心して住み続けられるための医療、福祉、子育て、住まい等の生活機能の確保
 - 交通ネットワークの確保
- 経済**
 - 多様な交流を生み魅力高める都市づくり
 - 既存ストックを活用したコスト削減
- 環境**
 - 自然環境・地球環境との共生、コンパクトな市街地の形成
 - 災害リスクに備えた都市づくり

人口減少・高齢化に対して何も対策を講じなかった場合、非効率な市街地形成となり、生活利便性の低下などの事態を招く恐れ

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりへ

人口減少下においても生活利便性を確保し、高齢化の進展に対応した安全・安心の住みよい生活環境を確保

■ 策定委員会意見

- 少子高齢化は避けて通れないので、**ある程度機能をまとめていく**が必要
- 既存の交通手段だけでなく、**色々な方法を活用して移動ネットワークを構築**していく必要がある
- 3m以上の浸水想定区域に建っている**公共施設に対する対策**が必要
- 地域にあるスーパーがなくなるだけで**暮らすことが難しくなる**
- **転入を呼び込み転出を抑制するまちづくり**が必要（江部乙など風光明媚な地域は刺さる魅力があると思う）
- 1つのまちに必要なものが全部あるのは当たり前ではなくなると思う。
- **周辺地域と協力しながら滝川が中空知の中核**であるというまちづくりが必要
- 20年後このまちで暮らしていくとすれば、労働場所の提供、民間企業にとって**投資しやすい魅力的な施策**が必要

- 滝川での暮らしを守っていくことが必要 → **ウチ向きの視点**
- 外から人や投資を呼び込んでくる必要がある → **ソト向きの視点**
- ➡ **2つの視点からまちづくりに取り組むことの必要性について指摘**

■ 市民アンケート調査結果

- 【今後の居住意向】（R3.9月実施アンケート）
今後も住み続けたいとする人が約半数。
- 【人口減少によって心配なこと】（R3.12月実施アンケート）
「商業の撤退」「医療・福祉・商業等のサービス提供が難しくなる」「公共交通の運行本数・路線数の減少」を挙げる人が半数以上。
- 【居住環境として重要と考える機能・項目】（R3.12月実施アンケート）
「買い物」「通院」「公共交通」「防災」面を挙げる人が半数以上。
- 【中空知地域の中心都市としての役割・機能】（R3.12月実施アンケート）
「商業・医療等の都市機能を維持する」割合が半数以上と最も高い。

- 居住環境として商業・医療・交通は重要な都市機能だが、人口減少によりこれらの機能の維持が困難となることに不安を感じる市民が多数
- 今後も滝川に住み続けてもらう、移り住んでもらうための環境整備は、人口流出を抑える観点から重要

まちづくりの方針（ターゲット）と誘導方針（ストーリー）

誘導方針（ストーリー）

- ① まちなかの魅力向上
 - ・ 中心市街地における都市機能及び居住の誘導
- ② 地域生活に必要な都市機能の確保
 - ・ 各地域における商業、医療、教育、子育てなどの都市機能を確保
- ③ 生活を支える交通ネットワークの形成
 - ・ 地域のニーズに応じた移動手段を確保
- ④ 災害に強い都市づくり
 - ・ 水害を想定した防災対策の推進と災害時を考慮した居住の誘導
- ⑤ 公共施設管理の最適化
 - ・ 老朽化が進む公共施設の適切な更新・再編を推進

まちづくりの方針（ターゲット）

- **滝川暮らしの質の向上**
（人口流出を抑制する定住環境の整備）
- ↕ **“暮らし”と“魅力”の相乗効果を生むまちづくり**
- **滝川に人を惹きつける魅力の創造**
（人口流入・交流人口拡大を促進する環境の整備）

誘導方針（ストーリー）

- ① 商業等の高次都市サービスの確保
 - ・ 中空知圏の生活を支える都市機能を確保
- ② 広域交通ネットワークの確保
 - ・ 周辺自治体との広域交通のネットワークを維持
- ③ 産業を支える拠点とネットワークの充実
 - ・ 地域資源を生かし、交流人口を拡大
- ④ 魅力ある住宅・住環境の形成
 - ・ 市街地における空き家発生の防止、不動産流通の促進
- ⑤ 自然環境との共生・住環境の確保
 - ・ 自然環境、農村環境を保全・活用
 - ・ 豊かな自然環境、農村環境を生かした魅力ある住環境の確保

2. 将来都市構造の検討

2-1. 将来都市構造の考え方

将来都市構造の設定における検討ポイント/検討課題

【都市機能】

①都市機能が分散し、まちの中心部が空洞化する中で、どこを拠点として都市を再構築していくか？
中空知の中心都市として、都市機能をどこに誘導していくか？

②各地区において、どのような生活機能を維持し、どこを拠点とするか？

③公共施設の再編・集約のターゲットとなる拠点はどこか？

市民アンケート調査結果・策定委員会意見

【市民アンケート調査結果】

- 今後人口減少が進行した場合、**都市機能**や**公共交通**に関して不安を感じる市民が多い。
- 商業施設の立地の方向性について、**中心市街地への立地誘導**の意見が最も多くっており、「公共投資や行政支援を行うべき」という意見が多い。
- 生活実態としては、「JR 滝川駅・ベルロード周辺」に訪れる人が少ない状況だが、今後都市機能の充実を図るべきエリアとして、「**JR 滝川駅、ベルロード周辺**」が**6割以上と最も高く**、次いで「バイパス沿道・イオン周辺」が約4割となっている。
- 中空知地域の中心都市として、「**中空知地域の暮らしを守るため、商業、医療等の都市機能を維持**」する役割が期待されている。

【策定委員会意見】

- 少子高齢化は避けて通れないので、ある程度機能をまとめていくことが必要。
- 妊娠出産や保育サービスなどの支援の優先度が高くなっているため、対策が必要。
- 20年後このまちで暮らしていくとすれば、労働場所の提供、民間企業にとって投資しやすい魅力的な施策が必要。

【市民アンケート調査結果】

- 居住環境として重要な機能・項目として、5割以上の市民が、「**スーパーや飲食店の利便性**」、「**医療・福祉**が身近にある環境」、「**公共交通の利便性**」、「**避難所等の防災・減災対策**」を挙げている。

【策定委員会意見】

- 地域にあるスーパーがなくなるだけで暮らすことが難しくなる。

【市民アンケート調査結果】

- 更新を図るべき公共施設として、教育施設、医療施設、子育て支援施設の優先順位が高く、行政施設、公園、公営住宅、交流施設の優先順位が低い。文化交流施設は年代によって異なる。
- 充実を図るべきエリアのうち、上位である「JR 滝川駅・ベルロード周辺」「バイパス沿道・イオン周辺」「市役所・市立病院・三楽街周辺」における充実を図るべき機能は次のとおり。
 - ①JR 滝川駅・ベルロード周辺…飲食、商業・業務・サービスが高く、交通、交流、公園・広場も高い
 - ②バイパス沿道・イオン周辺…商業・業務・サービス、飲食が高く、医療・福祉、交通、居住も比較的高い
 - ③市役所・市立病院・三楽街周辺…飲食が高く、商業・業務・サービス、医療・福祉も比較的高い

【策定委員会意見】

- 3m以上の浸水想定区域に建っている公共施設に対する対策が必要。

将来都市構造の考え方

①都市の拠点

- 「バイパス沿道・イオン周辺」には大型商業施設が集積しており、中空知地域の暮らしを支えている。
- 「JR 滝川駅、ベルロード周辺」に訪れる人は少ないものの、都市機能（商業施設等）の誘導を図るべきエリアとして重要視されており、行政の役割も期待されている。

「中心市街地（JR 滝川駅、ベルロード周辺）」と「バイパス沿道・イオン周辺」において、地区特性・生活実態を踏まえた機能分担や役割を明確化し、それぞれの機能強化を図ることで、利便性と魅力向上を図ることが重要。

- 中心市街地…交通、医療、交流機能等の都市機能を集積した拠点エリア
- バイパス沿道・イオン周辺…商業機能を中心とした生活利便性を支える拠点エリア

②各地区における生活機能

- 身近な地域においては、商業、医療・福祉の生活機能と防災機能、交通手段を一体的に確保することが重要。
- 国道12号沿道を中心に商業施設、医療施設、バス停留所が集積。

生活利便機能が集積する国道沿道エリアにおける機能の維持が重要

江部乙、東滝川など、地区内で生活機能を確保。確保できない場合は、その機能までのアクセス手段の確保が重要。

③公共施設の再編・集約のターゲットとなる拠点

教育・医療・子育て支援などの身近な生活に関連する公共施設については、各地区からアクセスしやすい位置に更新や集約化、適切な長寿命化を行い、利便性向上・安全性確保を図ることが重要。

都市全体の施設は、JR 滝川駅・ベルロード周辺等における拠点形成と一体的に検討することが重要。

将来都市構造の設定における
検討ポイント／検討課題

【居住】

- ①各地区の人口動向を考慮し、どのように居住を誘導していくか？
- ②DID 人口密度が低い状況を踏まえ、どのように居住を誘導していくか？
- ③商業機能周辺の人口密度が低い状況踏まえ、どのように居住を誘導していくか？
- ④災害リスクを考慮した上で、どのように居住を誘導していくか？
- ⑤中空知地域の中心都市として住みよい環境をどのように形成していくか？

市民アンケート調査結果・策定委員会意見

【市民アンケート調査結果】

- 現在の居住地を選んだ理由として、「出生した時からの場所、親と同居・近居」が最も多いが、**職場や生活の利便性、住環境、経済性の観点**から居住地を選択していることが伺える。
- 「**市内線の路線バス区域を中心に住宅供給を誘導すべき**」が最も高く、次いで「防災の観点から居住の誘導すべき」、「滝川中心部及びその周辺にゆやかに居住誘導を図るべき」、「郊外部への宅地開発を認めるべき」と続いている。この結果から、コンパクトな市街地形成を図ることの必要性を市民も認識していることが伺える。
- 居住環境として重要な機能・項目として、5割以上の市民が、「**スーパーや飲食店の利便性**」、「**医療・福祉**が身近にある環境」、「**公共交通の利便性**」、「**避難所等の防災・減災対策**」を挙げている。

【策定委員会意見】

- 年々空き家が増えていると感じる。
- 少子高齢化は避けて通れないので、効率化・集約化して生活を維持していくという考え、まとまることは必要不可欠。

将来都市構造の考え方

【居住】

- 生活利便性と住みよい住環境を確保するため、市街地において、一定の人口密度を維持することが重要。
- 高齢化の進行を考慮し、路線バス等の交通手段が確保された一定の市街地エリアに新たな居住を誘導するコンパクトな市街地形成を図ることが重要。

人口減少下においても都市機能と交通手段の維持・確保を図るため、これらと一体となって居住を誘導し、人口密度の維持を図ることが重要

- 市街地の広い範囲に浸水リスクのあるエリアが広がっている。

居住の誘導にあたっては、浸水リスクを考慮した誘導が重要。

【交通ネットワーク】

- ①持続可能な公共交通の維持・充実、利用促進に向けて、どのように都市機能・居住を誘導し、公共交通軸を確保すべきか？

【市民アンケート調査結果】

- 鉄道・バスの利用頻度は、約半数が「利用しない」となっており、「年数回」と合わせると、鉄道は88.9%、バスは84.2%とほとんど利用されていない状況。
- 公共交通を維持するために重視すべき考え方としては、「**マイカーを利用できない人のための移動手段は確保すべき**」が最も高く、バスを利用する人は「**地域内の公共交通の維持**」が同じ割合で高い。
- 公共交通を利用したい・利用すると思うための方策として、バスを利用する人は「**快適にバスが待てるようにする**」「**鉄道とバスの乗継利便性を向上する**」「**鉄道、バスの運行本数を増やす**」が高く、バスをほとんど利用しない人は「**自宅や目的地のすぐ近くで乗降できるようにする**」が最も高く、次いで「**高齢者や子どもの運賃負担を減らす**」となっている。

【策定委員会意見】

- 既存の交通手段だけでなく、色々な方法を活用して移動ネットワークを構築していくことが必要。

【交通ネットワーク】

今後の高齢化の進行も見据え、自家用車を利用できない人のため、色々な方法で移動手段を確保することが重要。

なるべくコンパクトな市街地形成を図ることで、運行効率を上げ、公共交通の維持を図ることが重要。

滝川駅前広場は交通結節点として、バス待ち環境の快適性や、鉄道とバスの乗継利便性の向上を図ることが重要。

2-2. 将来都市構造（案）

まちづくりの方針（ターゲット）と誘導方針（ストーリー）

都市構造の考え方にに基づき、
誘導方針（ストーリー）を空間的に置き換えると

3層構造のコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造

広域の交流を支える拠点・ネットワークを形成

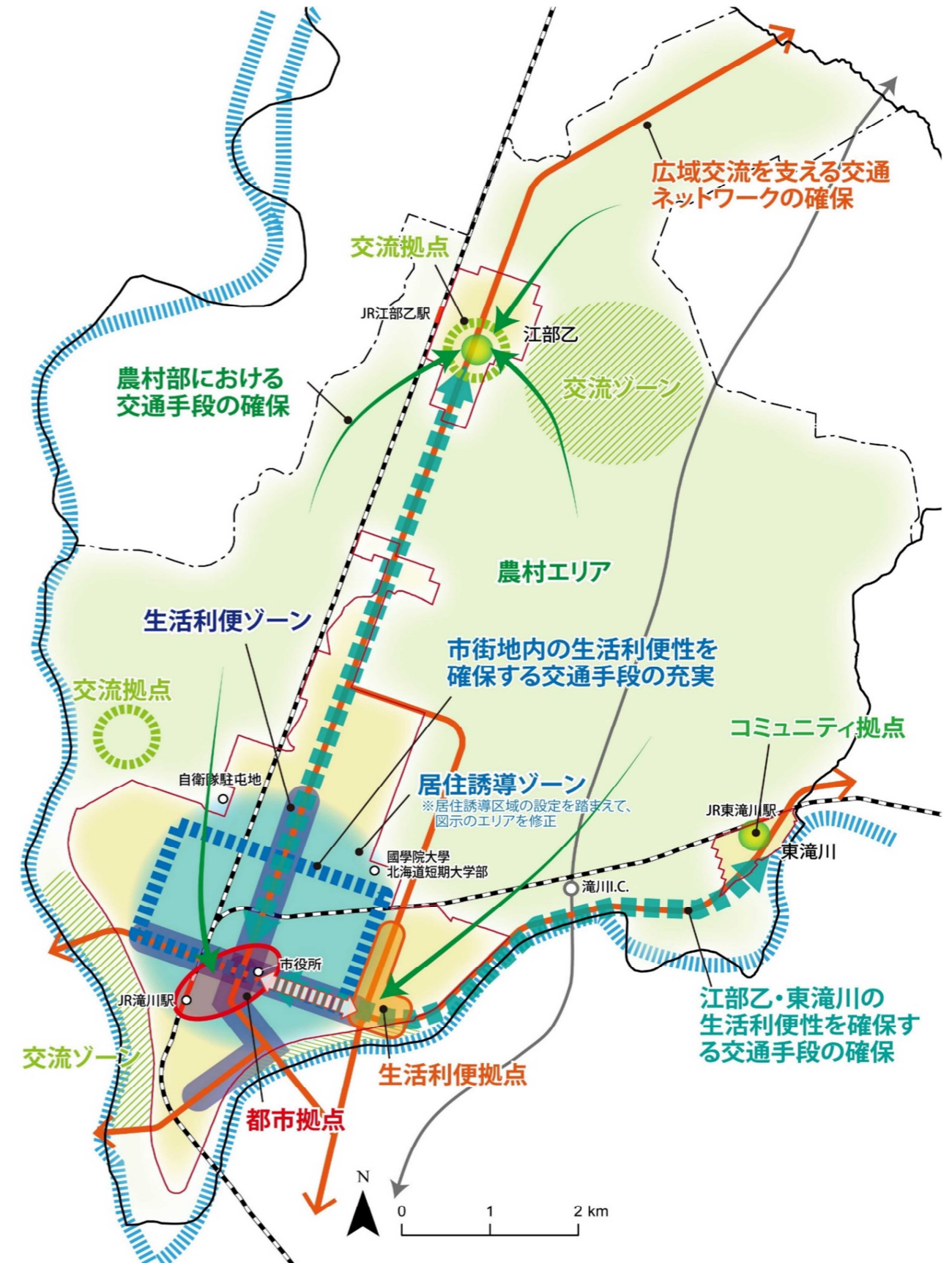
- 中心市街地における拠点機能の強化と魅力創造（都市拠点）
誘導方針：まちなかの魅力向上／商業等の高次都市サービスの確保／公共施設管理の最適化
- バイパス沿道における商業機能の維持（生活利便拠点）
誘導方針：商業等の高次都市サービスの確保
- 周辺自治体との移動・連携を支える交通ネットワークの維持・充実
誘導方針：広域交通ネットワークの確保

生活機能と公共交通が一体となった利便性の高い市街地を形成

- 国道沿道における生活利便機能の維持・確保（生活利便ゾーン）
誘導方針：地域生活に必要な都市機能の確保
- コンパクトな市街地の形成と公共施設の適正配置（居住誘導ゾーン）
誘導方針：魅力ある住宅・住環境の形成／公共施設管理の最適化
- 市街地内の生活利便性を支える交通手段の維持・確保
誘導方針：生活を支える交通ネットワークの形成
- 空き家発生の未然防止、不動産流通の促進
誘導方針：魅力ある住宅・住環境の形成
- 災害対応力を高める市街地の形成
誘導方針：災害に強い都市づくり

農村部・郊外部における暮らしを守り、魅力を創造

- 江部乙、東滝川における地域コミュニティや交流活動の拠点となる場を形成（コミュニティ拠点）
誘導方針：地域生活に必要な都市機能の確保
- 自然環境や地域資源を生かしたさらなる魅力を創造し、交流人口拡大を図る拠点・ゾーンを形成（交流拠点・交流ゾーン）
誘導方針：産業を支える拠点とネットワークの充実
- 江部乙、東滝川、農村部における交通手段を確保
誘導方針：生活を支える交通ネットワークの形成
- 自然環境、農村エリアの保全・活用を図る
- 豊かな自然環境、農村環境を生かした魅力ある住環境の確保
誘導方針：自然環境との共生



特にご議論いただきたいこと
まちづくりの方針（①滝川暮らしの質の向上、②滝川に人を惹きつける魅力の創造）について、それぞれ何をすることが特に大事か…？ 具体的な方法・アイデア、またその場所はどこか…？

参考：生活利便機能の維持・確保を図る「生活利便ゾーン」の想定

